

異なる世代や属性の人々が混在・共生する「ごちゃませ」を体現する施設のあり方が近年注目されています。この概念は、社会福祉から地域づくりへと展開していくことが期待されており、子育ての社会的な支援が進みつつあるなかで、「ごちゃませ」の取り組み事例の多くで子どもの姿がみられます。



子育ちから考える 多世代居住の生活環境

2019年12月6日(金)

16:00 ~ 18:00

日本建築学会 建築会館 会議室

(東京都港区芝5丁目26番20号)

パネラー

森田眞希氏 …企画・運営の視点から
(NPO 法人地域の寄り合い所また明日・代表理事)

西川英治氏 …空間設計の視点から
(株式会社五井建築研究所・代表取締役)

コメンテーター

佐藤将之氏 (早稲田大学)

小林秀樹氏 (千葉大学)



「ごちゃませ」を測る方法論を探る

会員 3,000 円

会員外 4,000 円

学生 1,500 円

(住宅系研究報告会 2 日間の参加費も含まれています)

世代間の関係づくりをテーマとした昨年のパネルディスカッション「世代の“あいだ”を暮らす」を受け、今回は子どもにおもな視点をおいて、異なる世代・属性の人々が混ざることの意義、またそれを実現することの可能性や課題について議論を継続します。住まうところや預けられるところを自ら選ぶことができない子どもにとって「ごちゃませ」はどのように評価できるのか？、実践者と研究者をお迎えして多世代居住の生活環境のあり方を探ります。

企画・コーディネート：住宅系研究報告会 建築社会システム委員会・幹事
(内海康也, 梅本舞子, 小山雄資, 後藤智香子, 山本幸子)